



2013年4月から観察の記録を毎月作ってきましたが、今回をもって最終回とさせていただきます。13年間、ご覧いただきありがとうございました。毎回何かしらの発見があつて歩くのを楽しむことができました。今年は春先から雨が少なくダム湖の水位が例年になく低いです。春の風は優しく、寒さを感じずに歩けました。池にはカンムリカイツブリが数羽残っていました。



ソメイヨシノ

冬芽の芽鱗を落としつぼみがせり上がってきました。名古屋の气象台の標本木は昨日開花したと聞きました。ここではまだ数日かかるようです。



咲いていた桜 2種



ニホンタンポポ

歩いていて目立つのは上のニホンタンポポです。総苞(萼)が反り返らないのが特徴です。反り返るセイヨウタンポポは少ないです。



マツカレハの繭

アカマツの葉についていました。左は幼虫



下は成虫です。



ヤマモモ雄花のつぼみ

雄花は直に花が咲きます。その後雌木の雌花が咲き、初夏になるとジュシーな実が熟します。



ホソバオキナゴケ

ササの根元にマット状に生えていました。触るとふわふわします。空気中の水分で生活できるようです。山ごけとも言われます。

ヒサカキの雄花と雌花

この季節に雑木林の道を歩くと独特なおいがしました。インスタントラーメンのにおいに似ているという人もいます。雄花と雌花が別々の木にさき、黒い実が成ります。

<雄しべが見える雄花> <雌しべの見える雌花>



スギの雄花

雄花が開いて花粉を飛ばした後の花です。この花が終わる頃ヒノキの雄花が熟して花粉を飛ばし始めます。



ヒノキを見上げたら、葉の先に雄花の蕾がっていました。



ヒメスマイレ

側溝と道のすき間に生えていました。スマイレより小型で葉の裏は紫色を帯びています。



ツバメシジミ

食草はマメ科のシロツメクサやカラスノエンドウで、幼虫で越冬します。尾状突起がありその付け根に橙色斑があるのが目印です。

アケビ雄花の蕾

葉が3枚の<ミツバアケビ>



葉が5枚の<ゴヨウアケビ>



アブの仲間



ビロード

ツリアブ

蠅と共に春一番に現れるアブの仲間です。体長は1センチ。日だまりを探すと出会えます。



ホバリングが得意で、名前の由来となった釣り竿のような口吻が目印です。左はアシプトハナアブで後脚が太く見えるアブです。